



蘭  
三田  
一



特別  
子12  
3643  
13(17)









軍白

隅田川

作り物也

是ち武蔵の國隅田川のちり母

ありて人々を急ぎ人をたむ

ありやと存公又此在所よ去子細

てた念仏をすうらうら同僧侶を懸

つひ人救をあらうら其由皆心切

末も凍り候衣くひもさるくの

故 梅若誠太郎氏  
昭和五年五月七日  
梅若重戸氏  
寄贈  
朝書園



二十一日 舟田  
か極あ者ハもやこ乃者

あてい我東よ志る人乃人百も似者せ

事して心とあ下るふウヤ雲霞あて

を山よ都あてづくく用と乃みり

とがく國とるそは行は家であは行ふ

偶田乃やろりまややく急はきりく

急の行よ是りもよもは行乃日たる

あくびよあまじさもれもあ出の急の

もやとあひいりよ船頭故あねよるよ

まらあく作中このるあされえ

先に出んあくのぎのあはあそあ

行事あそ作うあ人の都より女

あねれりりあが具唯もあく面白く程の

とかんよ甲を換わつて物自あて

糖

二



つて彼お程と侍あひるまき山サシ安らるわ  
人の親の心やまよあらぬやも子を思ふ  
道よまよしやとまき今法行ひたつた宮の  
道行人よとつて行儀を行と尋ね  
流んまきやいふまき人乃成何だうも  
私よ音するあはひあり女其尊ぐ思  
の露のよよカを恨まきや明らわ

世上カの心ハ劫ハ白行よ年経くとりる成  
か思はれらぬよ獨子を人商人よあり  
つわて行急とまきけハ相坂の南ノ東の  
國をまきあつたまきもよ下アぬとまき  
心乱まきつづあはしつり思ひ子ハ法と  
尋ねてまよあひありウ子守まを行し親心子  
をまきらるまきあはとウア本すよりも娶り

備











やあやとこも  
 人と思ふ妻  
 けい急とよき同し  
 子と尋ぬるも  
 我も又いざ  
 ともわづらふ  
 東路ありや  
 あやとこも

都鳥部のきとや  
 少きまほりけの  
 早はまの隅田  
 守船とて  
 守らるる



かくれやうきね申さうらふなまじく  
 舟よ乗付し渡りたるうれわたり  
 ちしながまひておよむれえ 男 あよ  
 向きの柳の奈ま人の多くあつ  
 まりていさ行さう 甲 ちし作  
 あまの大会はあそびざれよまてえ  
 成お語りの此舟の向きのあうん福よ

かくろく ツル びきき戸あうすう 諸 伝も  
 去年三月十五日 ウハチ 志うも コシ 今白 ニチ 相 アヒ 當 アタリ  
 ていびと アキ 高 ヒト 人の都より トシ 年の程十二三  
 づり成たさあ ツル さい者 カヒ と買 ツル ちう ツル 奥へ  
 下ア ツル ぐ ツル 此 ツル ち ツル ち ツル 者 ツル ち ツル ち ツル ち ツル ち  
 振 ツル ち ツル ち ツル ち ツル ち ツル ち ツル ち ツル ち ツル ち ツル ち  
 ち ツル ち ツル ち ツル ち ツル ち ツル ち ツル ち ツル ち ツル ち ツル ち



作とあしほり世よの情なき者なりそ  
此たはあまの者そへ具まへ路次は捨く  
高人多真へ下はきていふ去回この名なり  
く此たさぬ言者なり安とかなひより  
有きよみこの程よ様とよ痛くそくを  
前世のうらみくもやいなきごんた  
よりのよまより既よ事おとみ一付

たこつてつてある成人そと父の名字  
しも國も事くく我の初は白けよ  
吉田の行果とし入りのわひらりま  
きていふ父よいそこれ母言ようひあそを  
いひとちて高人のかごのはらまてか根よ  
あつんちのいれそ手影もあつらう  
作て此道入り馬にいらつて説てるよ



柳を植ゑ給われと行かぬやうに合  
仏五世とあり終よこととさうりく作  
あじぢぢぢ義ある物語さくさく見せ  
をも船中もささ都の人もははる  
ぎもる縁もさう念仏とほつて  
舟舁いふようあり長物語よみうそ  
てのやうくはあづらひ男かみ松

今白き此河は蓮葉はらして縁あ  
かり念仏とさうりくさくさく  
是ありお女侍とて舟さうりくたうぬ  
急いであづらひらり流も今うの物語  
とさうりくさくさくさくさくさく  
よりあづらひ女あみ毎人トおはは  
らりぬさくさくさく女三月今



めいしきく女  
母其鬼子の年子ハ十二子歳子

又又乃乃名名也也  
梅梅乃乃丸丸 父父のの名名字字ハ

甲田田のの行行果果 母母ををななむむもも

女尋尋のの親親おおととももたたつつぬぬるる

かかいていて母母とともも尋尋ぬぬよよああらら思思ひひもも

ううららぬぬららああのの親親おおととももたたをを

とともも尋尋ぬぬららうう理理ののああまま其其たたらられれ

きき者者社社此此おお狂狂ぐぐ尋尋ぬぬるる子子ああてていいふふ人人

とといいふふはは是是のの夢夢又又もも意意津津ままううややいい

言語言語通通断断ののららぬぬららぬぬららぬぬららぬぬららぬぬららぬぬららぬぬ

よよううのの事事とといいふふははああららぬぬららぬぬららぬぬららぬぬららぬぬららぬぬ

れれ子子ああららぬぬららぬぬららぬぬららぬぬららぬぬららぬぬららぬぬららぬぬ

今今迄迄いいららぬぬららぬぬららぬぬららぬぬららぬぬららぬぬららぬぬららぬぬ

志志ぬぬ東東よよ下下ににたたるるよよ今今入入世世すす



あふれぬ語りつらさをみるるよばらも  
しづこや死ね縁とて生前せとらわく東  
ぬその道乃身りのまをぬてまの  
草のままありたる洗下よ結るまわ  
しりもてかんと洗ねどかへて今  
なび世のなせと母よみそせ給わ  
青<sup>アサ</sup>物<sup>アサ</sup>ももひもくまらわくそせ給わ

あふれぬ語りつらさをみるるよばらも  
しづこや死ね縁とて生前せとらわく東  
ぬその道乃身りのまをぬてまの  
草のままありたる洗下よ結るまわ  
しりもてかんと洗ねどかへて今  
なび世のなせと母よみそせ給わ  
青<sup>アサ</sup>物<sup>アサ</sup>ももひもくまらわくそせ給わ



上

佛

十

此ては月つゞけ成もてや更なる  
 我念仏の時節あれども  
 志をすをあらすしむる  
 母ののがあらは念仏をえ申さる  
 して唯しき即て後存なり  
 やあよ乃人たほまらまのた母の  
 ちあひ給りてとてま  
 哀者もよろこび

念仏ノチ  
口付

給ふきれと喜うてを母も  
 我子のためとまをばらえ此身も身鐘  
 をとりあきて  
 月乃我念仏をえも  
 西へと一筋に  
 南無西方極樂世  
 界三十六萬億同名阿彌陀佛  
 南無阿彌陀佛













三

三



